

救急車は適切に使いましょう

救急車の出動件数が増えると、消防署で待機する車両数が減るため、重症など緊急を要する方への迅速な処置と搬送が遅れる場合があります。利用する際には本当に緊急性があるか考えてから呼びましょう。



▶救急車を呼ぶポイント

大人の症状

顔

- 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- 視野がかける
- ものが突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てない
- ぐらいいきにふらつく

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- 痛む場所が移動する

手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

腹

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

子ども(15歳未満)の症状

顔

- くちびんの色が紫色で、呼吸が弱い

頭

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血がとまらない、意識がない
- けいれんがある

胸

- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い

おなか

- 激しい下痢や嘔吐で水分が摂れず食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- ウンチに血がまじった

手足

- 手足が硬直している

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

飲み込み

- 変なものを飲み込んで、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

じんましん

- 虫に刺されて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった

やけど

- 痛みのひどいやけど
- 広範囲のやけど

生まれて3カ月未満の乳児

- 乳児の様子がおかしい

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

※消防庁パンフレットより引用

▶迷ったときは、小児救急相談窓口にご連絡ください

子どもの急な病気やけがで、救急車を呼んだ方が良いか、自分で病院を受診した方が良いか、どこの病院に行けば良いか迷ったときにはご相談ください。

- 電話番号 #8000または024-521-3790 (アナログ回線など)
- 受付時間 午後7時から翌日の午前8時まで

Interview

安心して療養できるように案内をしています

今、救急車を受け入れている病院では、早期退院が求められています。そのため白河医師会では、退院された方をサポートすることを目的に、昨年10月から、楽市ビル(JR白河駅前)内に医療・福祉情報センターを立ち上げました。このセンターでは、退院後も安心して自宅で療養できるように往診医を紹介するほか、ご家族の負担を軽減するために様々な介護サービスの事業所を案内するなど、在宅医療を推進する取り組みをしています。お困りの方は、お気軽にご相談ください。

《医療・福祉情報センター》

- 日時 月～金曜日(祝日を除く) / 午前9時～午後5時
- 同センター ☎@8923



白河医師会
会長 穂積彰一氏

◎地域医療の課題と取り組み

安心できる地域医療を目指して

少子高齢化が進む中、地域医療を支える現場でも医師の高齢化や後継者不足、救急外来の増加など様々な変化が起こっています。

今月号では、地域医療の現状と解決に向けた取り組みを紹介します。

健康増進課(中央保健センター) ☎@2112

■地域医療の現状と課題

医療体制が充実している都市部に医師が集中する一方、地方では医師の高齢化や後継者不足が深刻で、地域医療を維持することが大きな課題になっています。特に夜間・休日診療の維持が困難な状況ですが、近年、軽症にもかかわらず病院に訪れる「コンビニ受診」が増えていて、医師や看護師の負担増に拍車をかけています。

また、救急車の出動件数や搬送人数が増えていて、これに伴い救急隊が現場に到着する時間も遅くなっています。さらに、搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状も問題になっています。



■地域医療を守る取り組み

《地域医療啓発事業講話「適正な救急受診とは!？」》

11月5日、マイタウン白河(本町)の「おひさまひろば」で、関院の関元院長を講師に「地域医療啓発事業講話」が開催されました。

関院長は、地域医療体制の現状に加え、8月から白河厚生総合病院で再開された小児平日夜間救急医療事業が同院の夜間救急外来を担当する医師の負担軽減に繋がっていることや、夜間救急外来の利用法などを話しました。参加者からは、「病気ごとにとっさの対処法が書かれたものがあると良い」などの感想がありました。



《小児平日夜間救急医》

- 日にち 月～金曜日(祝日を除く)
- 受付時間 午後7時15分～9時15分
- 場所 白河厚生総合病院小児科外来
- 対象者 15歳以下で急病の方
- ※白河医師会所属の医師が交替で診療します。
- ☎白河厚生総合病院 ☎@2211

《休日救急医療当番医(小児科、内科、歯科)》

- 日時 日曜、祝日(年末年始を除く) 午前9時～午後5時
- 場所 当番の医療機関
- 対象者 急病の方
- ※当番医院および電話番号など、詳しくは各世帯に配布している「休日救急医療当番医表」、または「広報白河15日号(毎月)」をご覧ください。